

リニューアル特別記念展 品川の海に御台場ができるまで一日記でひも解く 170 年前の大工事一

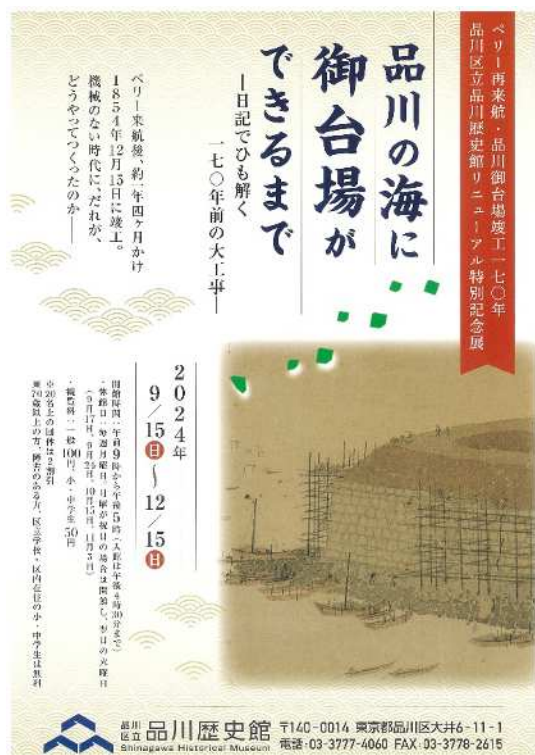
期間	令和6年9月15日(日)～12月15日(日) 79日間				
会場	品川歴史館 1階 特別展示室				
担当者	富川武史(当館学芸員)				
有料観覧者	一般 2,983	小中 166	一般団体 129	小中団体 0	有料計 3,278
無料観覧者	区関係 59	区内小中 1,263	招待 84	高齢者 1,280	無料計 2,686
	総計 5,964				

〔開催趣旨〕

18世紀末から日本近海に出没し始めた外国船は、突如として訪れる脅威として存在し続けた。中でも、1853年(嘉永6)6月のペリー率いるアメリカ合衆国東インド艦隊の江戸湾来航と翌年3月の「日米和親条約」締結は、日本史上有名な出来事として記録されている。

1853年、江戸幕府はペリー艦隊を含め次々と来航が予測される諸外国の脅威から江戸を守るため、外国船対策を強化する。その要となったのが品川沖に築かれた海上砲台「品川御台場(内海御台場)」だった。2024(令和6)年は、ペリー再来と条約締結、御台場が竣工してから170年となる節目の年である。

品川御台場の普請は、江戸城築城以来約220年ぶりとなる将軍直轄事業だったが、そもそも機械のない時代、人力だけで海中に人工砲台を造るという大土木工事はどのように進められたのか。本展は、品川区域を含めて普請に関わった人びとの視点に注目し、幕府役人の高松彦三郎と下蛇窪村名主伊藤清一郎が残した日記を中心に大工事の様子を紹介した。



〔展示概要〕

プロローグ 迫り来る漆黒の艦隊

第1章 品川の海を埋め立て築く海上砲台

第2章 継承された伝統工法～石垣を積み上げる強固な基礎づくり

第3章 完成した御台場で守るものは

エピローグ 品川御台場その後

〔記念イベント〕

イベント名	日時	講師	会場	参加人数
リニューアル特別 記念展講演会	① 令和6年11月17日(日) 「ペリー来航と横浜の大名一藩 士の日記からみる武州金沢藩の 海防」 ② 令和6年12月15日(日) 「将軍を護る江戸湾の砦一村名 主の日記で紐解く品川御台場の 普請」 時間はいずれも14:00~15:30	①小林紀子 (横浜市歴史博物 館主任学芸員) ②富川武史 (当館学芸員)	講堂	① 66名 ② 65名 延べ131名
学芸員による展示 解説	① 令和6年9月28日(土) ② 令和6年10月26日(土) 「特別記念展『品川の海に御台 場ができるまで』の見どころ」 ③ 時間はいずれも13:30~ 14:30	富川武史 (当館学芸員)	講堂	①32名 ②41名 延べ73名